

・研究の目的

前立腺癌の標準的な診断マーカーである前立腺特異抗原(prostate specific antigen; PSA)の補助診断マーカーとして、prostate health index (phi)が2021年に、S2,3PSA%が2024年に保険収載されました。今回、当院における前立腺癌診断においてPSAがグレーゾーン(4-10ng/mL)でのphiとS2,3PSA%の有用性について比較、検証したいと考えました。この結果で、これまでよりも優れた前立腺癌の診断法を新たに導き出せる可能性があります。そこで、前立腺生検前にphiとS2,3PSA%を測定された患者さんのカルテに記載されている情報を用いて検討することにより、phiとS2,3PSA%の前立腺癌診断における有用性を比較し、明らかにしたいと考え、前立腺癌を疑った患者さんにより精度の高い診断を受けてもらえるようになると期待しています。

・研究の方法

(1)研究の対象となられる方

今回研究に参加していただくのは川西市立総合医療センター泌尿器科において2024年7月から2025年8月までの間に前立腺癌疑いの診断目的に前立腺生検を施行した症例です。

(2) 検査項目

この研究で調べる項目は、通常の診療として行われた以下の内容です。

・臨床背景

年齢、既往歴、合併症、身長、体重

・前立腺生検前の項目

トータルPSA値、フリーPSA値、[-2]proPSA値、PSA F/T、phi、S2,3PSA%、直腸診所見、経直腸超音波所見、前立腺総体積、MRI検査所見

・前立腺生検以降の項目

前立腺生検施行日、生検本数、生検部位、病理結果(Gleason score)、生検陽性コア数、臨床病期診断(TNM分類)

・研究担当医師

研究責任者:東郷容和

実務責任者:長澤誠司

分担者:貝塚洋平、吉岡慎平

opt out

・研究の目的

前立腺癌の標準的な診断マーカーである前立腺特異抗原(prostate specific antigen; PSA)の補助診断マーカーとして、prostate health index (phi)が 2021 年に、S2,3PSA%が 2024 年に保険収載されました。今回、当院における前立腺癌診断において PSA がグレーゾーン(4-10ng/mL)での phi と S2,3PSA%の有用性について比較、検証したいと考えました。その結果これまでよりも優れた前立腺癌の診断法を新たに導き出せる可能性があります。そこで、前立腺生検前に phi と S2,3PSA%を測定された患者さんのカルテに記載されている情報を用いて検討することにより、phi と S2,3PSA%の前立腺癌診断における有用性を明らかにしたいと考え、この研究を行うことで前立腺癌を疑った患者さんにより精度の高い診断を受けてもらえるようになることを期待しています。

・研究の方法

(対象)

2024 年 7 月 から 2025 年 8 月 までの間に、前立腺癌疑いの診断目的に前立腺生検を施行した症例について後方視的に検討を行います。

(取得情報)

年齢、既往歴、合併症、身長、体重、トータル PSA、フリーPSA、[-2]proPSA、PSA F/T 比、phi、S2,3PSA%、直腸診所見、経直腸超音波所見、前立腺総体積、MRI 検査所見、前立腺生検施行日、生検本数、生検部位、病理結果、生検陽性コア数、臨床病期診断(TNM 分類)について調べます。

・個人情報の取り扱い

収集したデータは、誰のデータか分からないように匿名化した上で統計的処理を行います。国が定めた「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても個人が特定されない形で行います。

・本研究に関する連絡先

診療科:泌尿器科

担当医師:東郷容和、長澤誠司

電話番号:0570-018-199